

労働團體を除く外殆んど全部出席、組合會議當面の任務を左の三項目と決定した。

一 労働組合の意志表示

二 労働組合の組織並に統一促進

三 労働組合の國際的連絡

續いて規約の審議を経て、準備會を直ちに「全國労働組合會議」となすべきや、否やの討議に入り、「右翼を加へて後結成すべし」との説と、即時結成、右翼は参加し得る道を聞きよけは充分である、との二説に分れ、両々相下らず、討論敎刺に及んだが遂に準備會持續説に決定し、新たに十三名の実行委員を選び左の聲名をなした。

我等は、全國労働組合の右翼、左翼を問はず真に労働組合戦線確立のため、更に労働

組合會議正式結成を延期し、準備會として之れが達成のため努力せんことを期す

かくの如き方針は、勿論幾多の困難を伴ふとは言へ、實踐上にあつても、理論上にあつても必ずしも不可能ではない。しかし乍ら最近の客觀的狀勢は著しく変化し、労働總同盟

を中心とする右翼は、労働立法促進委員會又は日本労働組合會議の名の下に右翼結成を企圖し、政府及協朝會或は昨冬來朝したるアルベール・トーマ等之れを援助し、意識的に戦線の分裂を計畫してゐる。之れに對する左翼が、労働組合を政治革命を目的とする一時的形態であるとする如き、労働者の自主的の而して労働組合の本質から見て相容れざるの狀勢となり、一月二十日、東京に開かれたる実行委員會はその結論を急いだ、かくしてブルジョア政府の走狗たる御用學者並に右翼幹部にその先見を誇らしめ、あるしかし乍ら我等は、労働組合の任務を眞実の目的とせる労働組合であるならば、必ず左右を問はず協同戦線の確立を確信するものである。故に我等は不断の努力を以てこれが完成を期する方針である。

本年度、組織部の活動は概して成績良好であつたと言ひ得る。尤も組合員敎に於て、更に産業的、地域的の拡大に於て、殊に有望に感じられることは各地主要工場にオルガ